

I. 学科別履修指針

都市環境学科

履修上の注意

大学における勉学は、問題意識を持って行うことが必要です。ただ受け身で授業を聴いても、身に付くものは僅かです。各教科の授業内容は、授業計画書（シラバス）に書かれていますので、授業の前に目をとおり、何がその授業で問題とされるのかを知った上で授業を受ける必要があります。また、授業の後で繰り返し自学自習を行うことにより、より深い理解を得ることができます。分からないところは積極的に担当教員を訪ね、その都度理解して先に進むという姿勢が重要です。そして、このような積極的な学修を通して、自分の進路を自信を持って定めることができますようになります。

都市環境学科のディプロマ・ポリシー

都市環境学科では、学修の質の保証と教育改善のため、以下に示すディプロマ・ポリシーを掲げ、カリキュラムが作成されています。

【2018年度以降入学生】

1. コミュニケーション力

論理的な思考力、記述力、発表と議論の能力を有し、他者と適切なコミュニケーションを取ることができる。

2. 課題を発見し、問題を解決する力

建設と環境に関わる諸問題に対し、工学に関連する基礎的な知識と情報技術を用いて論理的に分析することができる。

3. 自らを律し、学び続ける力

自己学習の習慣と自ら行動する自己管理能力を有し、専門職として生涯にわたって成長し続けることができる。

4. 他者と協力して目的を達成する力

建設技術が自然や社会に及ぼす影響について理解し、地域における関係者との連携・協働により目的を達成できる。

5. 専門的知識・技能を習得し、実践する力

専門知識や工学ツールを用いた構造物設計等について理解し、社会基盤の充実や防災・減災機能の向上に寄与できる。

6. 総合力

建設と環境に関わる知識、技術、倫理観を有し、実務課題を通して工学的に説明できるデザイン能力を身につけている。

【2014～2017年度入学生】

1. 知識・理解

(A 1) 建設技術と環境工学に関わる基礎的な知識を身につける。

(A 2) 建設技術と環境工学に関わる諸問題を演習・実験・実習を通して工学的に考察する能力を身につける。

(B) 社会的な広い視野の下で、総合的な価値判断ができる能力を身につける。

2. 汎用的技能

- (C) 論理的な思考と的確な文章表現を用い、自己の考えを効果的に表現するプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎力を身につける。
- (D1) 情報技術に関する知識とスキルを修得し、実践で活用できる能力を身につける。
- (D2) 建設技術と環境工学に関連する基礎的な数学および自然科学の素養を身につける。

3. 態度・志向性

- (E) 専門知識や工学ツールを利用して構造物の設計や環境への影響を評価ができる能力を身につける。
- (F) 建設技術が社会や自然に及ぼす影響を理解し、人類の発展と自然環境について総合的に考える倫理観を身につける。
- (G) 演習を通して他者との協調性、自己学習の習慣、自ら行動する能力を身につける。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

- (H) 実務的課題を通して調査・分析・考察し、工学的に説明するデザイン能力を身につける。

「資格試験」合格に係わる専門教育科目の単位認定

測量士補の資格試験に合格した場合、学生の願出により「測量学Ⅰ」2単位の単位認定を行います。

卒業後進路と教育

都市環境学科の卒業生は、都市環境に関わる施設の計画・基本設計・施工管理・維持管理を主とする国家公務員・地方公務員、施設の自然条件・社会条件調査・詳細設計を主とするコンサルタント企業、実際の施工を担当する建設会社などに就職するほか、大学院に進む場合があります。

就職に関しては、これらのどの分野に進んでも、変化の激しい21世紀の世の中に的確に対応することが求められます。また、都市環境学科の対象とする分野は広く、さまざまな新しい分野に取り組むことが求められます。

すなわち、大学で基礎的知識を身につけ、卒業後ひとりの技術者として実社会で活躍していくためには、継続教育が非常に重要であります。大学卒業後も、大学の図書館や都市環境学科教員を有効活用して、技術者としてのレベルアップに尽力ください。また、当大学には、社会人対象の大学院入学制度もあり、論文博士の制度もあります。生涯教育の場として活用ください。

資格

各種の資格を得るのに、大学を卒業したり、特定の科目の単位を修得していることにより、受験資格を与えられたり、試験科目の全部または一部を免除されることがあります。代表的なものを次に示しますが、これらの中には在学中に受検できる資格も多く、詳細は関係官庁などへ問い合わせてください。また、資格に関するカリキュラムとの関係等については各学科の履修指針を参照してください。

(1) 卒業時に取得できる資格

① 測量士補

測量に関する科目を修得した者は、願い出により資格を得られる。

(問い合わせ先) 国土地理院北海道地方測量部 電話 011-709-2311

(2) 卒業後、実務経験を経て受験資格が得られる資格

① 土木施工管理技士

卒業後、1級は3年以上、2級は1年以上の土木施工管理に関する実務経験を有する者が受験資格を得られる。

(問い合わせ先) (一財) 全国建設研修センター 電話 042-321-1634

② コンクリート技士

コンクリート技術に関する科目を履修し卒業後、主任技士は4年以上、技士は2年以上の実務経験を有する者が受験資格を得られる。

(問い合わせ先) (公社) 日本コンクリート工学会 電話 03-3263-1571

③ 建設機械施工技士

卒業後、1級は3年以上、2級は1年以上の建設機械施工に関する実務経験を有する者が受験資格を得られる。

(問い合わせ先) (一社) 日本建設機械施工協会 電話 03-3433-1501

④ 一級建築施工管理技士

卒業後、3年以上の実務経験年数で受験資格を得られる。

(問い合わせ先) (一社) 全日本建築士会 電話 03-3367-7281

⑤ 造園施工管理技士

卒業後、1級は3年以上、2級は1年以上の造園施工管理に関する実務経験を有する者が受験資格を得られる。

(問い合わせ先) (一財) 全国建設研修センター 電話 042-321-1634

⑥ 舗装施工管理技術者

卒業後、1級は3年以上、2級は1年以上の舗装施工管理に関する実務経験を有する者が受験資格を得られる。

(問い合わせ先) (一社) 日本道路建設業協会 電話 03-3537-3056

⑦ 土地区画整理士

卒業後、1年以上の地域開発事業に関する実務経験を有する者が受験資格を得られる。

(問い合わせ先) (一財) 全国建設研修センター 電話 042-321-1634

⑧ 測量士

測量に関する科目を修得した者は、卒業後1年以上測量に関する実務に従事した場合願
い出により資格を得られる。

(問い合わせ先) 国土地理院北海道地方測量部 電話 011-709-2311

⑨ 水道布設工事監督者

卒業後、3年以上水道に関する実務に従事した場合願い出により資格を得られる。

(問い合わせ先) 各都道府県水道主管部

(3) 卒業後、試験科目の一部が免除される資格

① 土地家屋調査士

測量士又は一級建築士となる資格を有する者は、第2次試験の免除を受けられる。

(問い合わせ先) 札幌法務局 電話 011-709-2311

(4) 在学中から受験できる関係資格

① 技術士第一次試験

技術士法に基づく国家試験であり、合格し登録することにより技術士補の資格が得られる。

(問い合わせ先) (公社) 日本技術士会 電話 03-3461-8827

② 環境社会検定試験 (eco 検定)

(問い合わせ先) 東京商工会議所検定センター 電話 03-3989-0777

③ 情報処理技術者

経済産業省認定の国家資格である。専門性に応じて細分化されており、利用者側で情報
化をリードする能力を認定する初級システムアドミニストレータ、情報処理の基礎となる資
格を認定する基本情報技術者、およびソフトウェア開発者側で総合的な実力を問うソフトウ
ェア開発技術者などがある。

(問い合わせ先) (独) 情報処理技術者試験センター 電話 011-727-8556

④ 情報処理活用能力検定 (J 検)

文部科学省認定の公的資格である。主としてビジネス関係の利用者の視点から応用シス
テムを構築・運用する能力を検定するもので、1級から3級までのレベルがある。

(問い合わせ先) (一財) 職業教育・キャリア教育財団 検定試験センター

電話 03-5275-6336